



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 546 回 9 割の失敗～負ける奴ほど成功する！

2013.10.13

「誇れることがあるとすると、4,000 のヒットを打つには、僕の数字で言うと、8,000 回以上は悔しい思いをしてきているんですね。それと常に、自分なりに向き合ってきたことの事実があるので、誇れるとしたらそこじゃないかと思えますね」…かの、NY ヤンキーズ・イチロー選手の言葉だ。でも、これはイチローだから言える言葉、確率 5 割の驚異的数字である。

我々凡人のリアルな世界は、こうはいかない。飛躍的成長を成し遂げたとみられる企業でさえも、成功の秘訣は「9 割の失敗」にある。これまで取り組んだことのほとんどが失敗している。上手くいったことなんて、全体の 1 割または 1 割にも満たないに違いないのだ。つまり「1 勝 9 敗」、9 割の失敗があるから 1 勝できた。恐らく「数多く行動し、数多くの失敗を重ねたこと」こそが、成功の秘訣なのかもしれない。

最近意外と多いのは「0 勝 0 敗」の企業。

「どうせ〇〇だから」「やってくれないから」「誰も教えてくれない」「何から始めていいか、分からない」等々有り余る理由を探しては、結果何もやらない。

そんな社員が多い企業「0 勝 0 敗」企業である。

慎重になることは決して悪いことではないが、慎重になり過ぎるあまり「行動」しなければ、最初から「成功の道」は見えないはずがない。

よく PDCA という言葉を耳にする。企業が行う一連の活動を、それぞれ Plan-Do-Check-Action という観点から管理するマネジメントサイクルの事である。いくら立派なプランを作ったとしても、行動(Do)がなければ絵に描いた餅、その後の PDCA は成り立たない。

最近日本人は、特にプランづくりはうまくなった。情報が豊かになり、頭でっかちが多くなった昨今、計画づくりは得意とする「オタッキー」な人種がはびこってきた。

この連中が作る計画は、明らかに実現不可能な破天荒な計画づくりに有頂天になるタイプか、神経質過ぎるほどネガティブな慎重論タイプの両極端だ。

前者は失敗する可能性があるが、でも、とりあえず前向きに動き出す。

「0 勝 0 敗」になるのはむしろ後者のタイプであろう。

慎重に行動するのが理想だが、日々の業務も忙しく、事前に協議・検討の時間を十分に取ることは難しいのが日常である。万全ではない、いつ成果が出るのかはつきりと見えない状態でも、とりあえずやってみることが重要となる場合もある。大切なのは戦績ではなく、10 回勝負してみる事だ。堂々と失敗して、失敗から多くを学ぶことだと思っている。

失敗が続くと心が折れそうになる、普通はそれで諦めてしまう。イチローも何回もそんな場面があったに違いない。でも、屈強な精神と断固たる信念でそれを乗り越えた時初めて、成功の女神が微笑んでくれるに違いない。今からでも遅きにあらず！ そう叫びつつ、ペンを置く。